学校番号	209

令和８年度　理科

教科	理科	科目	物理演習 β	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	センサー総合物理（補訂版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

毎回の授業をしっかりと聞き、演習問題に取り組んでください。
基本的に参考書は家で問題を解いてください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
物理現象についての知識、実験技術が習得できている。
【思考力、判断力、表現力等】
グループ学習で積極的に取り組み、現象や実験結果から考察することができる。
【学びに向かう力、人間性等】
新たな課題や目標設定を行うことができ、課題を解決することができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解をさらに深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を習得する。	観察、実験などを通して、物理学の基本的な概念、法則と関連付けながら、グラフや数式で考え、表現するなど、科学的に探究する力を習得する。	物理的な事物・現象に主知的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	力学	・剛体 ・運動量 ・等速円運動 ・慣性力 ・単振動 ・万有引力	a:見る視点を変えた(慣性系、非慣性系）際の、減少のとらえ方を理解する。 b:運動の様子を捉え、適した原理法則を用いることができる。 c:力学実験において、意欲的に取り組むことができる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 実験レポート	実験レポート 毎授業の取り組み
2	熱	・気体の法則 ・気体分子運動論 ・熱力学第1法則 ・状態変化 ・熱力学第 2 法則 ・熱機関の効率	a:気体の法則がミクロな見方の力学で説明できることを理解する。 b:熱機関のサイクルについて、ｐV グラフを描いて考えることができるようになる。 c:熱力学実験において、意欲的に取り組むことができる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 実験レポート	実験レポート 毎授業の取り組み
3	これまでの学習を踏まえたプレゼンテーション		a:これまでに得た知識を用いてプレゼンテーションを行うことができる。 b:主題に合ったプレゼンテーションを、平易に論理立てて説明できる。 c:意欲的にプレゼンテーションに取り組むことができる。	プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーション 毎授業の取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度